



子どもたち先生方の笑顔のために

# 共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和4年9月1日発行

第8号

長野県中信教育事務所



←過去の「共に歩まん」はこちら

## シリーズ「ここが大切 授業づくり」～特別活動編～

特別活動は、学級活動、児童（生徒）会活動、※クラブ活動、学校行事で構成され、それぞれ独自の目標と内容をもつ教育活動です。本号では、学級活動を例にポイントを考えましょう（※は小学校のみ）。

### ステップ1

#### 「学級活動」の内容等を学習指導要領解説で確認しましょう

取り上げようとしている課題が、

児童生徒全員が協働して取り組まなければ解決できないものか

個々に応じて行わなければならないものか

を明らかにしましょう。その課題によって学級活動（1）（2）（3）に整理され、育成を目指す資質・能力も明らかになります。

参考 小学校学習指導要領解説特別活動編→P43～ 中学校学習指導要領解説特別活動編→P44～



例えば、小学校の学級活動（3）（一人一人のキャリア形成と自己実現）で考えます。

### ステップ2

#### 年間指導計画をもとに題材の展開を構想しましょう

以下のような展開例が考えられます。

- ①題材を自分ごととしてとらえ、課題をつかむ
- ②これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性に気付く
- ③なりたい自分に近づくための方策や解決方法を話し合いを通して考える
- ④自己の努力目標や実践方法を決める（意思決定）
- ⑤意思決定したことを実践する
- ⑥実践したことの振り返りをする

主語は「児童」です。

アンケート結果やグラフの提示、意見の共有等では、積極的にICTの活用を！

ステップ2のような段階を踏まえた授業構想ができれば、育成すべき資質・能力を意識して授業を実践しましょう。

### ステップ3

#### ステップ2の⑥から①を大切にしましょう

児童が④で決めたことについて、粘り強く実践したり、活動を振り返って成果や課題を確認し、自身が自分の努力に自信を深めたり更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めたりするなど⑥から①へのサイクルが重要です。

2学期始めには“決意”や“目標”など個に関わる決めごとも多いかな？ 決めたあとの実践、振り返りを充実させよう。朝と帰りの短学活の時間も利用できそうだね。そのことが資質・能力の育成につながっていきそうだ。



※共に歩まん第6号のステップ5で、野草を食するような事例を掲載しました。食べ物を扱う際には食物アレルギーに十分な配慮をお願いします。